

# 新しい世紀を迎えて

山口夏郎

新しい世紀を迎え、皆様も想いを新たにしていることと思います。

「熱帯林業」も新シリーズとなって丁度 50 号、森林問題が世界的な課題として注目される新しい世紀に、想いを新たにしているところであります。

生い立ちを遡れば、1966 年に熱帯林業協会の機関誌として刊行されてから 35 年、その間、シリーズが変わるという激変も経てきましたが、身は小さくても我が国唯一の海外林業関係誌として、皆様の支援の下に本日まで継続して参りました。しかし、新しい世紀を迎えて、取り巻く情勢は大きく変わってきております。地球環境の世紀と言われる 21 世紀、温暖化対策など国際的な取り組みが具体化されるに従い、これまでになく森林問題は世界的に重要性を増して参ることでしょう。

熱帯林ばかりでなく温帯林も寒帯林も、地球上のすべての森林が重要とされ、地球上の森林資源を持続的に維持して行くには、如何なる経営を行っていくかにテーマが移って参ることでしょう。

このような時世の動きに対し、わが「熱帯林業」も当然応えて参らねばならないと考えております。

先ずは、「熱帯林業」という名前を改める必要が有るのではないか。またシリーズの変更となるのではないか。内容も技術論だけでなく、国際的視野に立った政策論も必要となって来るのではないか。これまでは、まだそのような本格的な誌面にはなっていないのに、直ぐにそれに合った体制作りが出来るかなど。問題は多々あり、編集委員会においてもこの問題は論じられました。

そして、当面は「熱帯林業」という名前に拘ることなく、懐を広くして対応して参ることと致しました。

これまで「熱帯林業」が時世の流れに沿って変わって来た様に、今の名前の儘で暫し現シリーズを続け、内容的には時世に合わせて熱帯林に限らず温帯林も寒帯林も取り上げて参り、世の期待に応えて参りたいと考えております。

皆様方にもこの方針をご理解願ひ、新世紀に沿った誌面づくりに、一層のご協力をお願い申し上げ、新しい世紀を迎えての想いを述べ、ご挨拶と致します。